

23年はGTO7社でシェア4割強

■ドゥルーリー調査、MSCが買収効果で大幅増

海事調査会社ドゥルーリーは12日、グローバルターミナルオペレーター（GTO）に関する最新のレポートを公表した。2023年の出資比率調整後ベースのコンテナ取扱量を見ると、GTO上位7社で世界のコンテナ取扱量の40%以上を取り扱った。シンガポールのPSAインターナショナルは引き続き首位を維持した。中国の招商局港口は、チャイナコスコを抜いて2位に浮上した。MSCグループはボロレ・アフリカ・ロジスティクスの買収効果もあり、10%以上の増加となった。

ドゥルーリーがまとめた2023年の出資比率調整後ベースのGTOのコンテナ取扱量は表のとおり。PSAインターナショナル、招商局港口、チャイナコスコ SHIPPING、APMターミナルズ、DPワールド、ハチソンポーツ、MSCグループ（TiLとアフリカ・グローバル・ロジスティクスを含む）の上位7社でシェアが40.4%となった。GTOの総数は21社となり、全てのGTOのシェアは48.6%となった。

PSAインターナショナルはドゥルーリーが計算した出資比率調整後ベースで前年比4.6%増の6260万TEUとなり、世界首位を維持した。中国の招商局港口は8.7%増の5500万TEUとなり、チャイナコスコ SHIPPINGを抜いて2位に浮上した。チャイナコスコ SHIPPINGは1.4%増の5380万TEUで3位だった。

上位7社で最も伸び率が高かったのがMSCグループだ。前年比で10.3%増の4230万TEUとなった。MSCグループは2022年12月にボロレ・アフリカ・ロジスティクスを買収しており、その後、アフリカ・グローバル・ロジスティクス（AGL）とブランド名を改めた。買収効果などもあり、取扱量が好調に推移した。

8位以下においては、インドのアダニが650万TEUとなり、13位となった。インドのコンテナ市場は経済成長に伴い、好調に推移しており、今後も

年々増加すると見られる。また、アブダビポーツは今年第1四半期（1～3月）に、スペインのAPMターミナルズ・カステリオンや、パキスタンのカラチ・ゲートウェー・ターミナル・マルチパーパス・リミテッド（KGTML）などの買収を完了しており、来年以降の順位上昇が予想されている。

ハパックロイドグループもターミナル事業への投資を加速している。近年は、チリを拠点とするSAAMターミナルズのターミナル事業の買収や、インドのJMバクシーポーツ&ロジスティクス、イタリア港湾物流グループのスピネリ・グループへの投資を行った。今年7月にはターミナル・インフラ事業について、ロッテルダムを本拠に新たなブランド「ハンザティック・グローバル・ターミナルズ（Hanseatik Global Terminals）」を立ち上げ、サービス展開する方針を発表した。現在は11カ国・計20のターミナルを管理運営するが、今後はさらに10～15程度のターミナルを増やし、2030年時点で30以上のターミナルを運営していきたい考えだ。このため、ハパックロイドについても来

2023年のGTOのコンテナ取扱量（出資比率調整後ベース）

順位	ターミナルオペレーター	コンテナ取扱量 (万TEU)	前年比 (%)	シェア (%)
1	PSAインターナショナル	6,260	4.6	7.2
2	招商局港口	5,500	8.7	6.4
3	チャイナコスコ SHIPPING	5,380	1.4	6.2
4	APMターミナルズ	4,890	▲1.2	5.6
5	DPワールド	4,430	▲4.7	5.1
6	ハチソンポーツ	4,300	▲4.6	5
7	MSCグループ (TiLとAGL含む)	4,230	10.3	4.9
小計		35,000	2.0	40.4
他のGTO		7,880	3.1	9.1
GTO合計		42,880	2.3	48.6

年以降、大きくシェアを伸ばすことが見込まれる。

ドゥルーリーが抽出しているターミナル事業者の投資額も前年比9%増となり、3年連続で増加した。主に大幅な処理能力の向上に向けた拡張プロジェクトや、ターミナル設備の近代化に対して投資された。GTOのうち5社が5億ドル以上の支出を行い、DPワールドとPSAインターナショナルは10億ドル以上の設備投資を行った。

近年は環境負荷低減に向けたターミナル投資も加速している。多くのターミナル事業者は2050年のネットゼロを掲げているが、APMターミナルズ（マースクグループ）とアダニは2040年のネットゼロ、ハパックロイドグループは2045年のネットゼロを目標としている。一方で中国のチャイナコスコ SHIPPINGと招商局港口は中国政府の方針に基づき2060年の脱炭素化目標を設定している。